

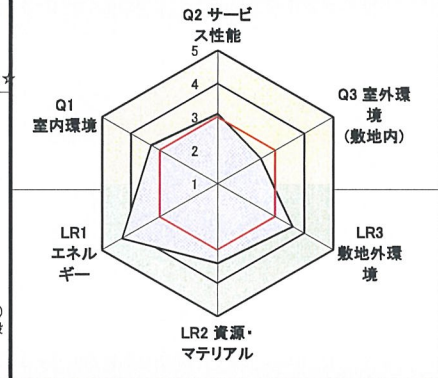
CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

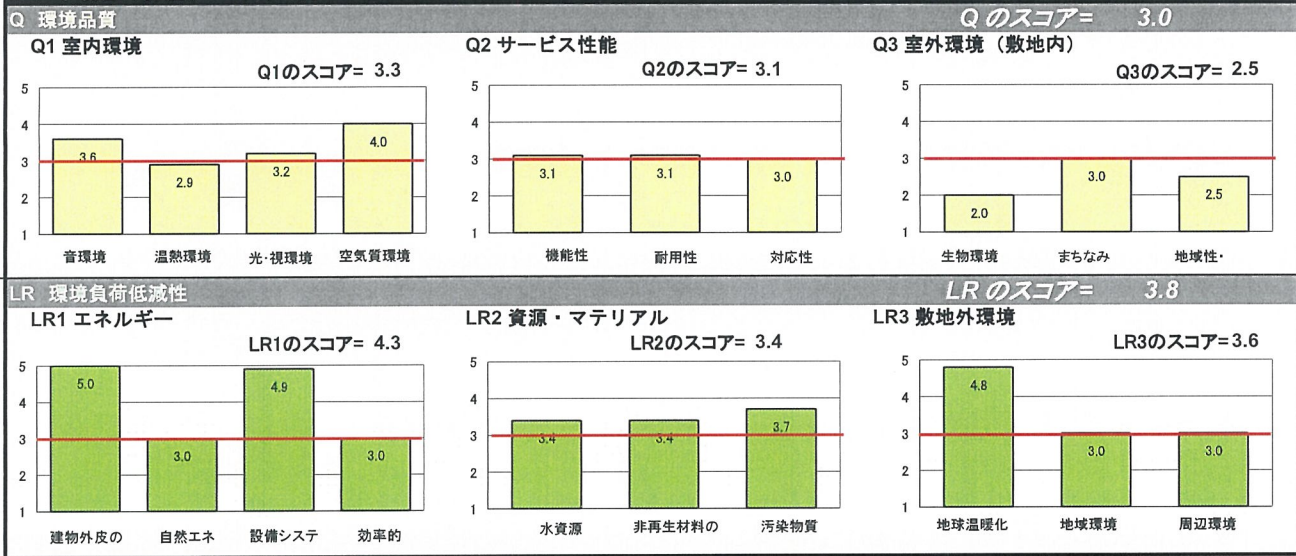
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平成27年度事業 公営住宅高松団地	階数	地上 7F
建設地	福岡市東区箱崎5丁目4115-2、4115	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	360 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2016年9月16日
敷地面積	9,255 m ²	作成者	ユニオン設計(株) 河原廣男
建築面積	1,385 m ²	確認日	
延床面積	7,102 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他
省エネルギーや耐久性を考慮して、地球温暖化防止、ヒートアイランド現象の緩和に努めている。	特になし
Q1 室内環境 断熱性能の高い外壁材の選択、屋根裏の断熱材設置等により空調負荷の低減に配慮している。遮音性能の優れた建材を使用し、住戸のプライバシーに配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 周囲に植栽を施し、敷地内のヒートアイランド現象の緩和を図っている。
LR1 エネルギー 建物の熱負荷を抑制している。設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具や省水型機器の利用により、節水を図っている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。
	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を削減し、地球温暖化防止を図っている。敷地内緑化により、敷地外のヒートアイランド現象緩和に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される